

EGOTERIC

P•2s / D•3

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

5700147400

TEAC[®]

このたびは、エソテリック製品をお買上げいただきましてありがとうございます。

ティアック技術の集大成により完成された「エソテリック」製品は、個々の部品選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しい品質管理を一台一台受け製造する受注生産方式で製造されております。

エソテリックシリーズの最高峰モデルとして生み出された P-2s/D-3 です。

最良のコンディションでご使用いただけますように、この取扱説明書を最後までお読みいただき、正しくご使用になり末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。



目次

特長	5~6
ご使用の前に	
● 設置/使用上のご注意	7
● 防振装置について	8
● コンパクトディスクの取り扱い	8
接続	
● P-2sとD-3の接続	9
● ステレオ・アンプとの接続	10
● D-3とデジタル出力を持つ機器との接続	11
● 電源の接続	11
各部の名称と説明	
● P-2s CDドライブ・ユニット	12~13
● D-3マルチD/Aコンバーター	14~15
● リモート・コントロール・ユニット	16~17
演奏(基本操作)	18
● ディスク・トレイを開いたままでも	19
● ダイレクト選曲 ● 演奏の中止	19
プログラム演奏	
● プログラムのセット	20
● プログラム内容のチェック	20
● プログラムの修正	21
● テリート・プログラム演奏	21
リピート演奏	
● 1曲リピート演奏 ● 全曲リピート演奏	22
● ブロック・リピート演奏	23
● プログラム・リピート演奏	23
便利な機構とその使い方	
● タイム・サーチ ● インデックス・サーチ	24
● シングル演奏 ● ミューティング	25
● 早送り/早戻し	25
● スキップ・サーチ	26
● タイム・カウンター ● オート・スペース	27
タイマー演奏	28
リモート・コントロール・ユニットについて	29
ブロック・ダイアグラム	30~31
解説	32
アフターサービスについて	33
仕様	34
寸法図	35

特長

P-2s CDドライブ・ユニット

■独自の高精度メカニズム。大径圧着式テーブル・ターンテーブル採用のV.R.D.S.

(Vibration-Free Rigid Disc-Clamping System)
P-2に搭載されたメカニズムを、さらにリファインしました。このメカニズムは、従来のメカニズムと異なり、CDディスクを同径のターンテーブルに圧着させ回転させています。アナログ・ディスク同様、大きな面で正確にホールドすることにより、面ブレを極小に押さえ込み、高精度な信号の読み取りを実現。同時に、ミクロン・オーダーでピットの情報を読み取るピックアップのアクチュエーターへのサーボ電流を大きく低減させる等、メカニズム系の不要振動を徹底的に排除しています。また、このターンテーブルにゆるやかなテーパを与え、ディスクのソリや歪を矯正しています。さらにメカニズムは、ディスク・ドライブ・モーターを亜鉛ダイキャスト・アームに固定し、1kgの精密加工を施した亜鉛ダイキャスト製メカベースで強固にサポートしています。P-2sでは、新たにターンテーブルをアルミ合金と黄銅の二重構造とし、共振周波数を下げ、振動減衰率をさらに高めることにより、メカニズム系の不要振動を低減させています。この重量級ターンテーブルを駆動するため、従来のフェライト・マグネットに代わり、サマリウム・コバルト・マグネットを採用。高トルクと高精度サーボを実現しました。また、トレイ駆動メカニズムの静粛性、安定性を追求することにより、さらに完成度を高めました。

■アクチュエーターの振動を低減。静粛サーボシステム。

V.R.D.S.システムにより、アクチュエーターのサーボ電流を大幅に減少させていますが、P-2sでは、サーボ電流の周波数を解析。不要振動の原因となる帯域を急峻にフィルタリング、さらにサーボ電流を低減させるとともに、静粛性を獲得しました。

■アルミ削り出しフロントパネル／徹底した制振設計の高剛性二重シャーシ。

P-2sでは、筐体をさらに高剛性化するため、インナー・シャーシの構造を見直し、アルミ削り出しフロントパネル(18mm厚)とあいまって、外部振動に強い、強固なコンストラクションを形成しています。

■金メッキのトレイ・トップ／ネクステル仕上げのアルミ削り出し薄型ディスク・トレイ。

P-2sのトレイ・トップ前面の刻印部分には、ワンポイントのアクセントとして、シルバー・メッキをほどこしています。P-2との外形上の違いは取えて、この部分だけにとどめています。

■静粛性を高めたトレイ・メカニズム。

IN/OUTスピードを調節できるD.V.S.C.機構。高精度パルス検出サーボ・モーターにより、トレイのスピードをIN/OUT時別々に、自由に変えることのできるD.V.S.C.(Disc Tray Variable Speed Control)機構。P-2sではトレイを支持するシャフトの径を極太にするとともに、レール部には高精度ベアリングを採用。静粛性をさらに高めています。スピード・コントロールはサイド・パネルにあるボリュームにより行ないます。

■ディスプレイの明るさを無段階調節できるFL輝度調節機構。

視認性の高い大型ディスプレイを、サイド・パネルのボリュームで、好みの明るさに無段階調節。さらに、リモコン操作によりディスプレイのON/OFFも可能です。目にやさしいカーム・オレンジのグラフィック処理も美しい、音楽を聴くことに徹するための機能です。

特長

D-3 マルチD/Aコンバーター

■すべてのデジタル入力のジッターを低減させる 新開発デジタル・サーボ・レシオ・ロックド・ループ

デジタル再生において、入力されたデジタル信号には、インピーダンスの不整合、送り出しのレベル、同期信号の非対称性などデジタル・オーディオ・インターフェースに起因するジッター（時間軸のゆれ）が必ず内包されています。デジタル伝送においては、伝送上混入するノイズなどはすべてジッターに置換されるので、ジッターの問題は、大変重要な意味を持ちます。従来のダブルPLL方式では、20~30kHz以上で発生するジッターのみ減少させるだけでしたが、このデジタル・サーボ・レシオ・ロックド・ループ(DSRL)では3Hz以上の可聴帯域に発生するジッターを40dB低減させることに成功。これにより、今まで表現することがむずかしいとされていた空間情報を正確に再現。次元の異なる音場、見通しを実現しました。

入力された信号は、一度RAM内にプールされ、クォーツ精度で生成したクロックとのレシオ(比率)に完全同期する低速のクロズド・ループで構成されており、音質上きわめて効果的なジッター・フィルターを構成します。ROMは、RAMから得られる純粋なジッターレス・データの1サンプル区間を 2^{16} (65,536)個のデータで満たすための高精度係数発生デバイスとして用いられ、最終段の演算器によって、出力からリクエストされるクォーツ精度のクロックのタイミングで演算、出力されるクォーツロックド回路です。

■〈ディザ〉を用い、理想的な変換ステップを実現するディストーション・シェイパーZDII

D/A変換誤差を〈ディザ〉で平均化し、21ビット(2,097,152段)の理想的な変換ステップを実現。高域集中ディザとすることにより、きわめて高いS/N比を獲得しています。D-3では、これをダブル・ディファレンシャル(差動)・モードで動作させており、50MHzの広帯域アンプで演算することにより、大幅なS/N比の向上に成功。また、16分の1シフト方式(デジタル・オフセット)20ビットDACを採用し、D/A変換におけるトータルな高性能化に寄与しています。

■3種類のPLL(CMOS、クリスタル、リチウムタンタレートVCO)最適自動切換え機構(アナログPLL時)

1st PLLで広範囲のデータを受信し、2nd PLLのVCOをレベル1、2の順で自動選択。レベル3モード時にDSRLに自動切換えます。また、リアパネルのセレクタースイッチによりレベル精度によらずDSRLに固定させることができます。

■理想の補間曲線を獲得する新開発サイン波移動平均回路

8倍OSからさらに、オーバーサンプリングする際、単なる移動平均によると、直線補間となり、オリジナル信号との誤差が顕著となります。D-3では、新開発のサイン波上に補間値を置く、サイン波移動平均回路を搭載、12/24OSを実現し、後段のアナログ補間での位相歪の発生を最小限に防止しています。

■内部干渉と外部振動を徹底排除

4ボックス・2重銅下ニッケルメッキ・シャーシアース電位、電磁シールド向上のため、シャーシ部すべてに銅メッキ、ニッケルメッキの2重メッキを新採用。アース電位の基準であるリアパネルにはニッケルメッキした厚銅板を用いるなど、さらなる低インピーダンス化を図っています。

■ST、RCA、BNC、XLRの4デジタル入力

さまざまな入力に対応するため4種類のデジタル入力端子を装備。特にST入力には、振動、ノイズに強いダイキャストに金メッキを施した米国AT & T社製ODL-50モジュールを採用。RCA、BNC、XLRは外部機器との無干渉化のためLAN用に開発されたアイソレーショントランスを採用。コモンモードノイズを20dB減衰させています。

■その他の特長

- アブソリュート・フェーズ(絶対位相)切換え機構
- ソフト・ミュート・スイッチ
- 25ビット演算・高精度デジタル・アッテネーター
- 電磁シールド付高周波用リレー
- 電流帰還アンプ内蔵高周波セレクター
- 4層構造ガラス・エポキシ基板

ご使用の前に

■設置／使用上のご注意

設置場所について

次のような場所で長時間ご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40°C以上)、または温度の特に低い場所(周囲温度-5°C以下)、では製品の正常な機能を維持できない場合がありますので避けてください。
- 湿度の多い場所(湿度90%以上)では金属部にサビを生じたり故障の原因となります。
- ホコリの多い場所ではスイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になり性能をそこなうことがあります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。
- その他、トランスやモーターの近くの設置は誘導ハムをひろう原因となりますので、離して設置してください。また、振動の多い場所も避けてください。
- 必ず水平な場所に置いてご使用ください。

光ヘッド(半導体レーザー)

光ヘッドは、プレーヤーの性能を決める重要な部分のひとつです。触れないようにしてください。光ヘッドの表面をきれいに保つために、プレーヤーをご使用にならないときは、ディスクテーブルをしめておいてください。

スタビライザーは使用しない

市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。故障の原因となります。

電源電圧はAC100V

国内電源AC100V、50/60Hzの範囲でお使いください。この電圧以外でのご使用は保証できかねます。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからははずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。

ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。この状態で電源を入れた場合、感電の恐れもあり危険です。また故障の原因となりますのでご注意ください。

ディスク

ヒビが入ったディスクは絶対に使用しないでください。また、ディスクレコード面にはほこりや指紋を付けないように取り扱ってください。

落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

セットのお手入れには

セットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。お手入れは、必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。

結露現象について

冬期などに本機(またはコンパクトディスク)を戶外から暖房中の室内に持込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、動作部やレンズに露がつきます。

露がついたままではレーザー光による信号の読取り演奏ができません。

結露の程度にもよりますが、電源を入れて1~2時間そのまま放置し、本機を室温に保てば露が消え、演奏できるようになります。

■防振装置について

CDプレーヤー内部にあるレーザー・ピックアップ部は、輸送時の振動から守るために、防振装置で固定してあります。本機をご使用になる前は、必ず同装置を解除状態にして下さい。

解除のしかた

本機の電源を入れる前に、図のように前面を持ち上げながら、付属の金具を差し込み、“FREE”側へ約30°軽くゆっくと回します。

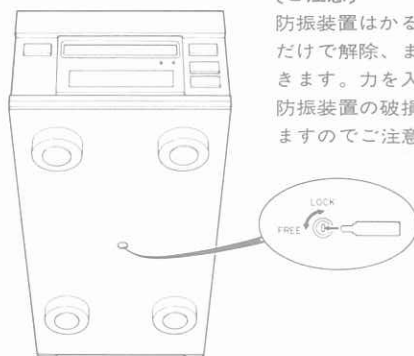
引越しなどで輸送するときは……

再度、防振装置で固定してください。電源を入れ、ディスク・トレイを一度開けてディスクが取り出していることを確かめてから、再びディスク・

トレイを閉めます。電源を切り、前面を持ち上げながら、付属の金具で“LOCK”側へ約30°軽くゆっくと回します。

【ご注意】

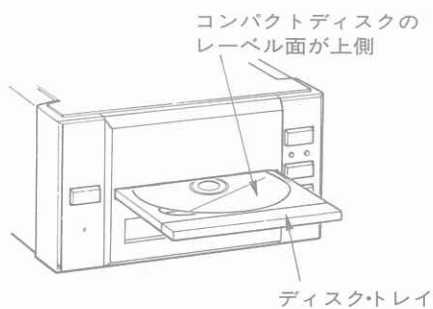
防振装置はかるく少し回すだけで解除、または固定できます。力を入れて回すと、防振装置の破損につながりますのでご注意ください。



コンパクトディスクの取り扱い

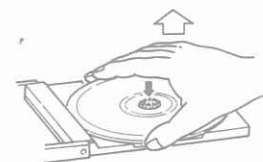
本機は、コンパクトディスク (CD方式) 専用のプレーヤーです。CDマークのあるコンパクトディスクをお使いください。

- ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。



- ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

取り出し方



コンパクトディスクの正しい持ち方



- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布などで軽く内側中心から外側へ直角方向に拭いてください。



- レコードスプレー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。ディスクの表面が侵されることがあります。
- ディスクは必ずケースに入れて保管してください。変形や、ひどいキズは音とびの原因となります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所にディスクを置かないでください。変形の原因となります。
- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。

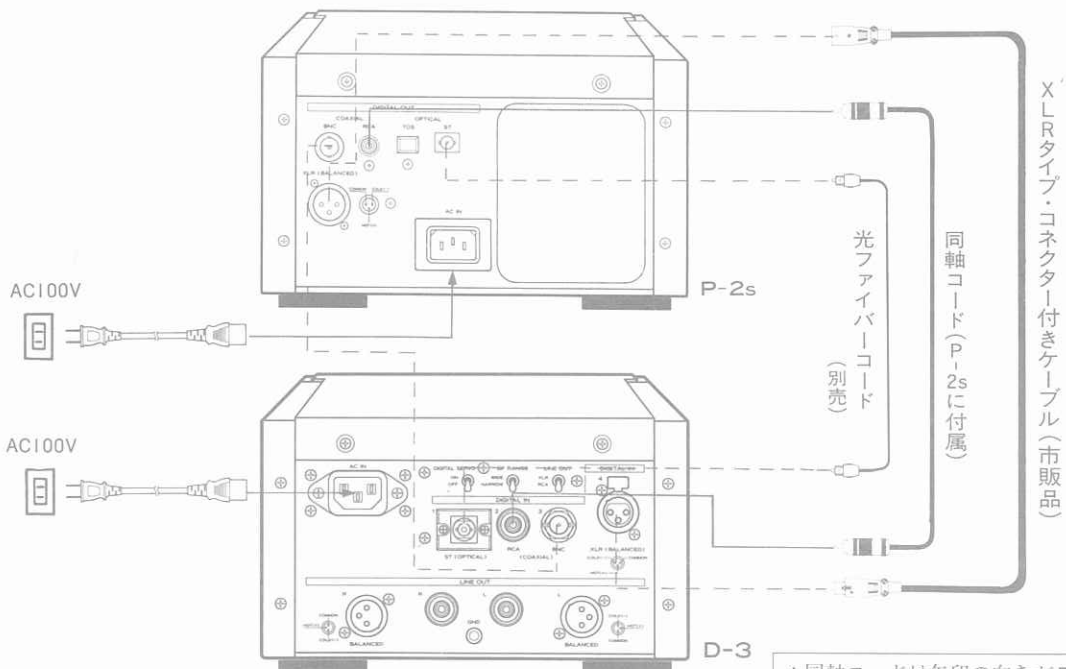
接続

■P-2sとD-3の接続

- 取扱説明書をよくお読みの上、接続の際はCDドライブユニット(P-2s)、マルチD/Aコンバーター(D-3)の電源を切ってください。
- P-2sに付属の同軸コードを使用する場合は、P-2s〔DIGITAL OUT〕端子の「COAXIAL RCA」とD-3〔DIGITAL IN〕端子のRCA(COAXIAL)を接続します。
- *付属のバン・テン・ハル社製コード(RCA-RCA)は方向性を持った2芯構造になっています。そのため、蛍光灯等の外来ノイズに対しシールド効果は若干低くなります。これは、“音質を優先”にした設計によります。一般の使用条件では問題ありませんが、外来ノイズによりミュート等が誤動作する場合は、市販の同軸コードを使用するか、電源ノイズ・フィルターをご利用ください。
- P-2sの〔DIGITAL OUT〕端子の「COAXIAL BNC」およびXLR(BALANCED)端子は、それぞれD-3の〔DIGITAL IN〕端子のBNC(COAXIAL)とXLR(BALANCED)端子に市販のケーブルで接続します。

- 光ファイバー・コード(別売)を使用する場合は、P-2s〔DIGITAL OUT〕端子の「OPTICAL ST」とD-3〔DIGITAL IN〕端子のST(OPTICAL)を接続します。

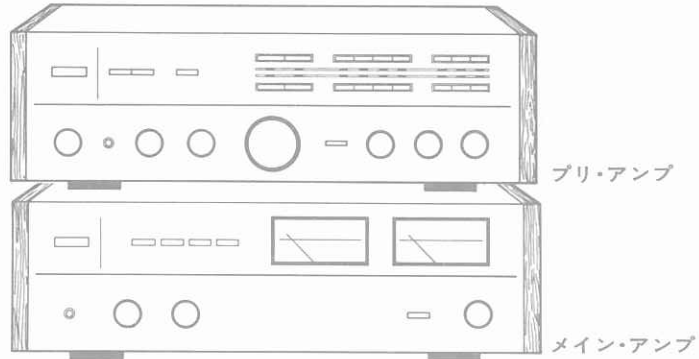
*米国AT & T社製のST規格光ファイバー・コード(EST-100/1m)を別売しています。接続する際は、ST端子の“キャップ”をはずしてください。また、接続しないときは、“キャップ”を付けておいてください。



*同軸コードは矢印の向きがD-3側(信号方向)になる接続をおすすめします。

■ステレオ・アンプとの接続

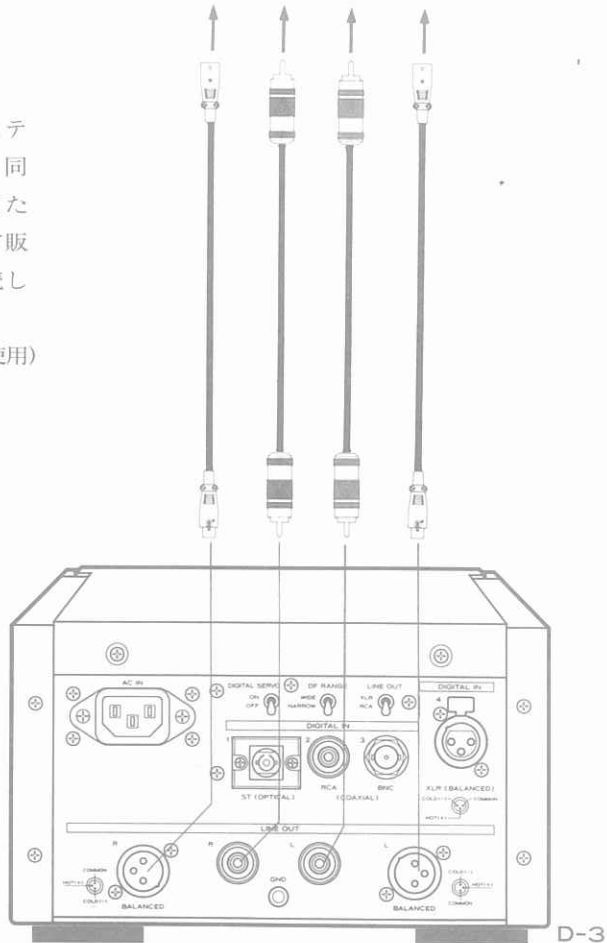
接続するステレオ・アンプの取扱説明書をよくお読みの上、必ずステレオ・アンプおよび本機の電源を切ってから接続してください。



プリ・アンプのCD・AUX端子
またはメイン・アンプの
INPUT端子などへ

アナログ信号の場合

- D-3の〔LINE OUT〕端子とステレオ・アンプのCD端子等を、同軸ピンプラグコード(別売)またはXLRタイプコネクタ(市販品)を用いたケーブルで接続します。
(後者は「BALANCED」端子使用)

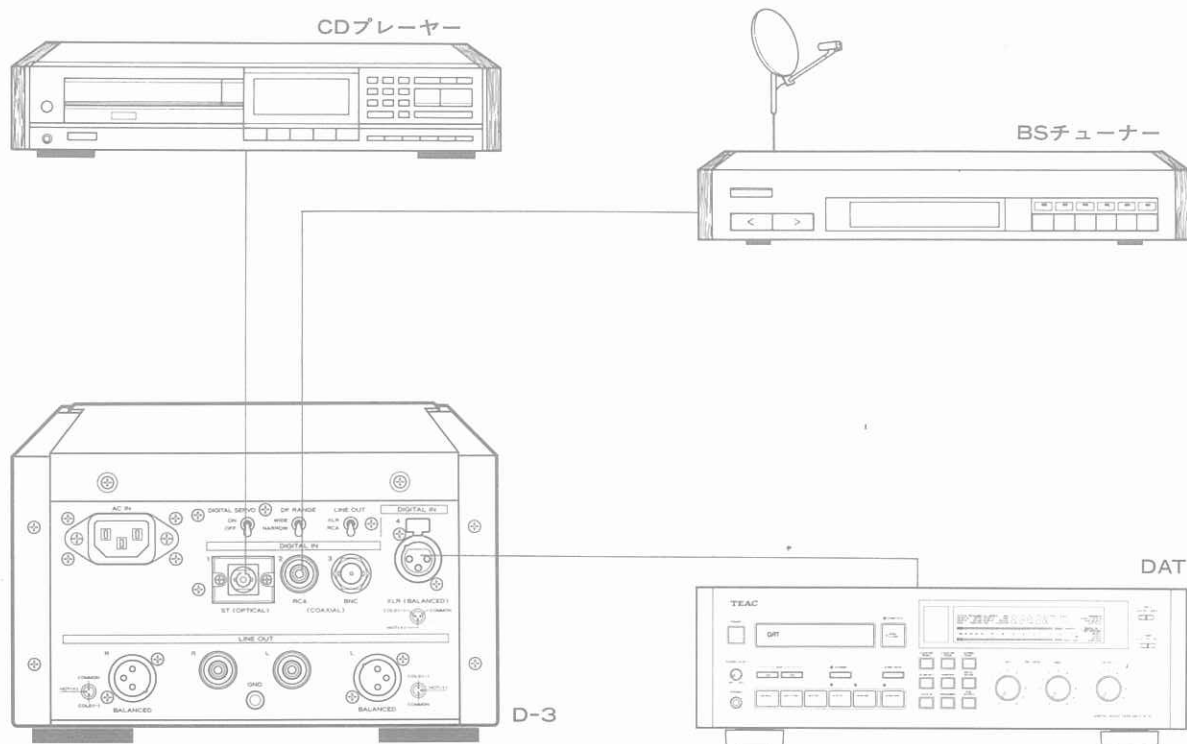


■D-3とデジタル出力を持つ機器との接続

デジタル出力を持つ機器の取扱説明書をよくお読みのうえ接続してください。

- D-3は[DIGITAL IN]端子としてST(OPTICAL)、RCA・BNC(COAXIAL)およびXLR(BALANCED)を備えていますので、4台までの機器を接続できます。

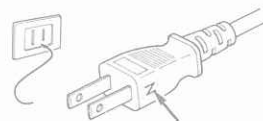
* [BNC]端子にBNC-RCA変換プラグ(付属)を接続するとRCA同軸コードで接続できます。



■電源の接続

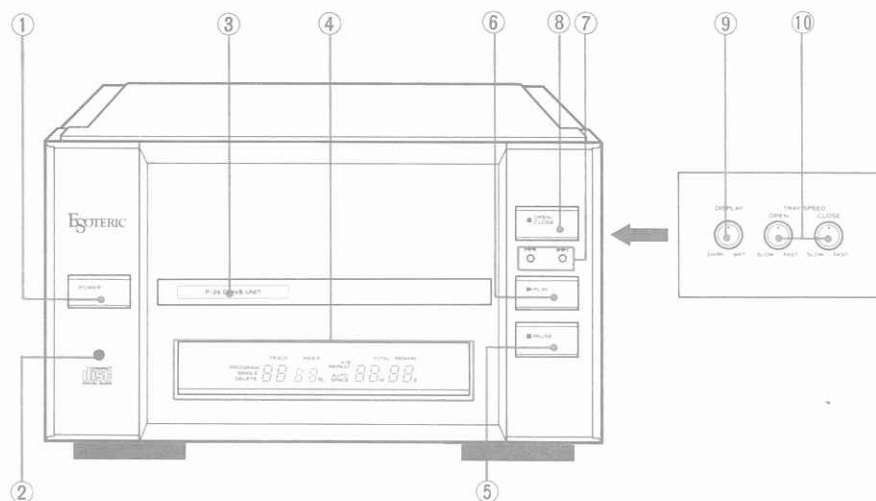
- 必ずAC(交流)100Vの電源コンセントに接続してください。
- 本機の電源は極性管理がされています。極性管理されている電源コンセントでは、溝の短い方がホット側、長い方がアース側です。
- 電源プラグの側面に“N”印のあるほうがアース側になっていますので、極性を合わせて接続してください。

*極性を合わせていない場合でも、音質にほとんど影響はありませんが、微妙に音質が変わることがあります。極性の管理されていない電源コンセントをお使いになる場合は、プラグの差し込み方を逆にして音を確認してください。



各部の名称と説明

P-2s CDドライブ・ユニット



①電源スイッチ〔POWER〕

押しON[]にすると電源が入り、もう一度押しOFF[]にすると電源が切れます。

*ディスクが入っている場合は、自動的に演奏が始まります。

②パワー & ディスク・インジケータ

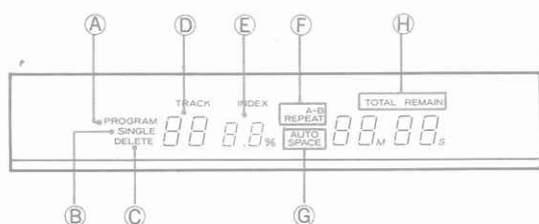
〔POWER〕スイッチを押して電源が入ると「緑色」、さらにディスクが装着されると「橙色」に点灯します。

③ディスク・トレイ

ディスクを装着するところです。〔OPEN/CLOSE〕キーを押すと前面に出て来ます。〔OPEN/CLOSE〕キー、〔PLAY〕キーまたは〔PAUSE〕キー、テン・キーのいずれかを押し、ディスク・トレイは収納されます。

④表示窓

本機の作動状態、または各種モードによって次の表示が出来ます。



①〔PROGRAM〕

プログラム・モードで点灯します。

②〔SINGLE〕

シングル・モードで点灯します。

③〔DELETE〕

デリート・プログラム・モードで点灯します。

④〔TRACK〕：トラック・ナンバー

ディスクを装着したとき、ディスクに入っている曲数を表示します。演奏またはプログラム中は曲の番号(曲番)を表示します。

⑤〔INDEX〕：インデックス

演奏中の曲のインデックス番号を表示します。

⑥〔REPEAT〕：リピート

●〔REPEAT〕：リピート・モード時に点灯します。

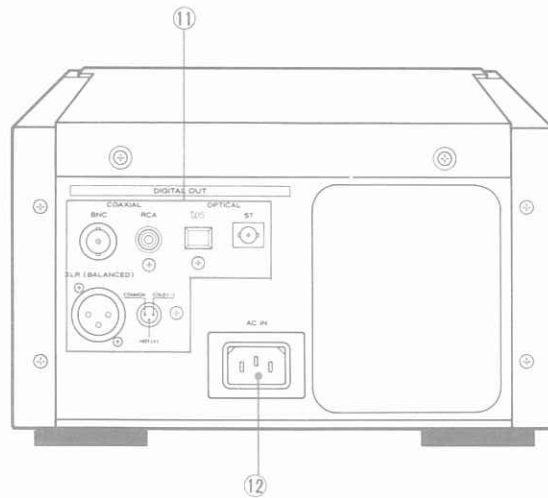
●〔REPEAT A-B〕：ブロック・リピート・モード時に点灯します。

⑦〔AUTO SPACE〕：オート・スペース

オート・スペース・モードで点灯します。

⑧〔REMAIN〕／〔TOTAL REMAIN〕

リメイン／トータル・リメイン
タイムカウンターが残量時間表示モードのときは“REMAIN”が点灯し、総残量時間表示モードのときは“TOTAL REMAIN”が点灯します。



⑤一時停止キー〔PAUSE〕

演奏を一時停止するときに押します。再び演奏を始める場合は、〔PLAY▶〕キーを押します。

“■”インジケーターが一時停止中点灯します。

⑥プレイ・キー〔PLAY〕

演奏を始めるときに押します。また、プログラム演奏を開始する場合にも押します。

“▶”インジケーターが演奏中点灯します。

⑦スキップ・キー

演奏中または一時停止中に押すと、押す度に曲の頭をサーチします。また、停止中に押すと、曲番の選択ができます。■26

●〔◀◀〕：1回押すと、今聞いている曲の頭に戻り、続けて押すと、前の曲へ戻ります。

●〔▶▶〕：1回押すと、次の曲の頭にとびます。続けて押すと、次の曲へと移ります。

⑧開閉キー〔OPEN/CLOSE〕

1度押すと、ディスク・トレイが出ます。もう1度押すと、ディスク・トレイが収納します。

開閉時、“■”インジケーターが点滅します。

⑨ディスプレイつまみ〔DISPLAY〕

表示窓の輝度を調節します。「DARK」は暗く、「BRT」は明るくなります。

⑩トレイ・スピードつまみ〔TRAY SPEED〕

ディスク・トレイの開閉速度をそれぞれ調節します。

⑪デジタル出力端子〔DIGITAL OUT〕

デジタル信号が出力されます。

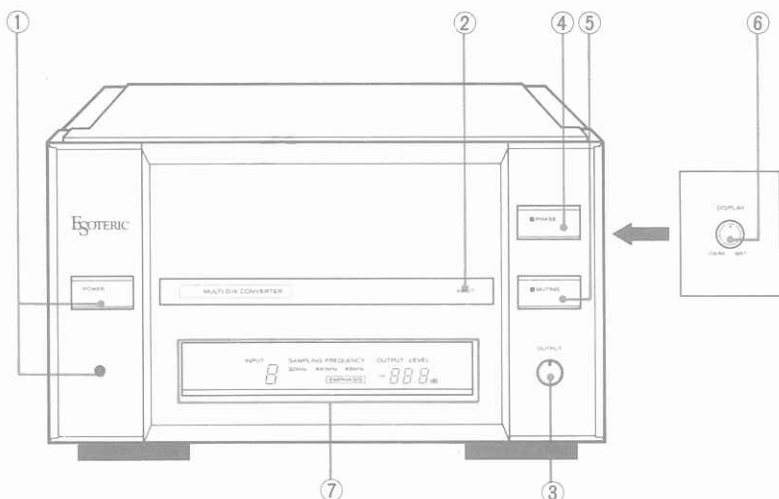
●「COAXIAL BNC・RCA・XLR(BALANCED)」：同軸コード用出力端子

●「OPTICAL TOS・ST」：光ファイバーケーブル用出力端子


⑫電源入力〔AC IN〕

AC電源コード(付属)を接続します。

D-3 マルチD/Aコンバーター



①電源スイッチ〔POWER〕／パワー表示兼オペレイティングLED

押してON()にすると電源が入り、LEDが次のように点灯します。

〔デジタル入力がない場合〕

「赤色」「緑色」「橙色」が交互に点灯します。

〔デジタル入力がある場合〕

デジタル・サーボON：「赤色」が点灯します。

デジタル・サーボOFF：

- 44.1kHz 入力の周波数偏差がレベル1 のとき、「緑色」が点灯します。レベル2 のとき、「橙色」が点灯します。

- 32kHz/48kHz入力の周波数偏差がレベル1、2 のとき、「橙色」が点灯します。

- 32kHz/44.1kHz/48kHz入力の周波数偏差がレベル3 のとき、「赤色」が点灯します。


※デジタル・サーボのON/OFFは、リアパネルのスイッチで行います。

②インプット切換スイッチ〔INPUT〕

〔INPUT〕部を押すとそのつど、機器が接続されている〔DIGITAL IN〕端子のみを選択します。

③出力レベル調節つまみ

〔LINE OUT〕端子の出力レベルを調節します。

*OUTPUT LEVELの表示は、-  が最大で、さらにつまみを回してもレベルは上がりません。

④フェイズ・キー〔PHASE〕

出力音声の位相を反転するときに使用します。キーを押すと動作をし、LEDが点灯します。もう一度押すと解除されます。

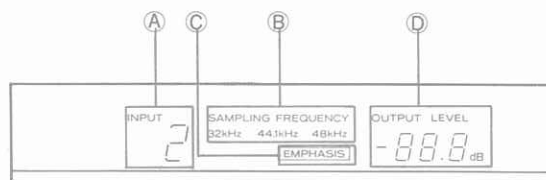
⑤ミュートキー〔MUTING〕

一時的に出力音声なくなり、LEDが点灯します。もう一度押すと解除されます。

⑥ディスプレイ輝度調節つまみ〔DISPLAY〕

⑦表示窓

各種モードによって次の表示がでます。



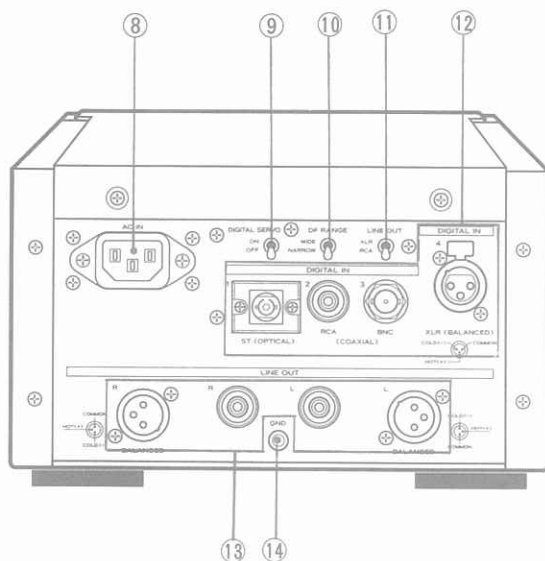
A インプット〔INPUT〕

〔INPUT〕スイッチにより選択されるデジタル入力端子の番号(1~4)を表示します。

B サンプリング周波数〔SAMPLING FREQUENCY〕

デジタル・サーボがOFFの場合は、デジタル入力のサンプリング周波数を読みとり表示します。

- 32kHz：DBS(Direct Broadcast Satelliteの略)
- 44.1kHz：CD、録音済みDATソフトテープ
- 48kHz：DBS、DAT(録音再生)



デジタル・サーボがONの場合は、すべての入力をデジタル・サーボ・レシオ・ロックド・ループ回路で48kHzにサンプリングしていますので、入力のサンプリング周波数に関係なく48kHzを表示します。

◎エンファシス〔EMPHASIS〕

エンファシス信号が記録されているディスクの再生時に点灯表示します。

◎出力レベル表示兼セレクター／エラー表示

●出力レベル表示：〔 --- ~ - $\square\square$ dB 〕
演奏中の出力レベルを最小(---)～最大・規定出力(- $\square\square$)までデジタル表示します。

●セレクター表示：〔 - \square - 〕

入力端子を選択中に点灯します。(ーは点滅)

●エラー表示：〔 - - - 〕

入力端子を選択時、指定の機器が接続されていない場合に点灯します。

◎電源入力〔AC IN〕

AC電源コード(付属)を接続します。

◎デジタル・サーボ・スイッチ

デジタル・サーボ・レシオ・ロックド・ループ〔DSRLL〕回路をON/OFFにします。スイッチがONのとき、DSRLL回路がはたらき可聴帯域内のジッターを40dB低減します。

◎高域帯域特性切換えスイッチ〔DF RANGE〕

デジタルフィルターの高域帯域特性を切換える。

●WIDE : 19kHz付近から上の帯域をゆるやかに減衰します。

●NARROW : 20kHz以上を急峻に減衰します。

◎⑪ライン・アウト・スイッチ〔LINE OUT〕

アナログ出力をXLR、またはRCAに切換えます。

◎⑫デジタル入力端子〔DIGITAL IN〕

デジタル出力を備えた機器を接続します。

●ST(OPTICAL) : 光ファイバー・コードで接続。

●RCA(COAXIAL) : RCA同軸コードで接続。

●BNC(COAXIAL) : BNC同軸コードで接続。

●XLR(BALANCED) : XLRタイプのコネクター付きケーブルで接続。

*〔BNC〕端子にBNC-RCA変換プラグ(付属)を接続するとRCA同軸コードで接続できます。

◎⑬アナログ出力端子〔LINE OUT〕

D/A変換されたアナログ信号が出力します。

●「BALANCED」端子はキャノン仕様のバランス型出力端子です。

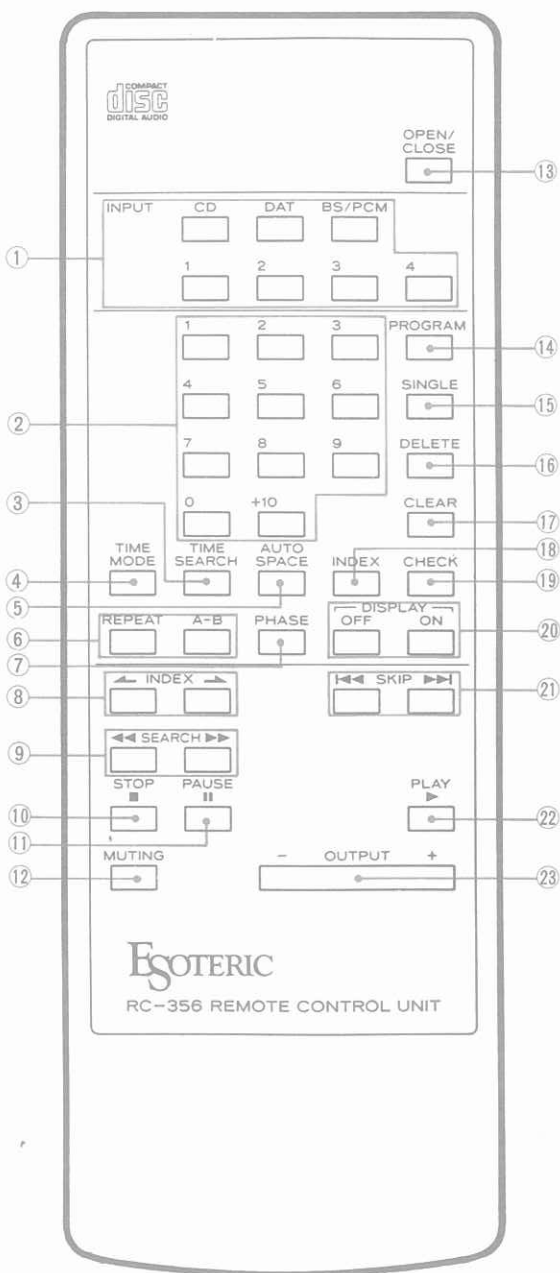
●「RCA」端子はRCA同軸コード用出力端子です。

*XLRコネクターは電子型バランス回路を使用しています。「COLD(-)」、「COMMON」ショート接続によりアンバランス接続もできます。

◎⑭アース端子〔GND〕

■RC-356: リモート・コントロール・ユニット(リモコン)

- RC-356はP-2sに付属され、D-3では別売となります。
- P-2sまたはD-3の表示窓に向けて操作してください。



①インプット切換キー〔INPUT〕〈D-3〉

- 「CD・DAT・BS/PCM」：押したキーと同名称の機器が自動的に選択されます。「CD」⇒CDプレーヤー、「DAT」⇒DAT、「BS/PCM」⇒BSチューナーまたはPCM機器。
 - 「1～4」：押したキーと同番号の〔DIGITAL IN〕端子の「1～4」がダイレクトに選択されます。
- *上方3個のキーは、押したキーと同名の機器が接続されていない場合は元の状態に戻ります。下方4個のキーは、接続機器の有無にかかわらず同番号の入力端子に切り換わります。

②テン・キー〈P-2s〉

曲の番号やインデックスNo.を選ぶときに押します。□⁰～□⁹は一の位；□⁺¹⁰は十の位に使用します。(例 5→□⁵、21→□⁺¹⁰□⁺¹⁰□¹)

③タイム・サーチ・キー〔TIME SEARCH〕〈P-2s〉

演奏時間に合わせたサーチが出来ます。■24

④タイム・モード・キー〔TIME MODE〕〈P-2s〉

P-2s表示窓のタイム・カウンターのモードを切り換えることができます。■27

⑤オート・スペース・キー〔AUTO SPACE〕〈P-2s〉

押すとP-2sの表示窓に“AUTO SPACE”が点灯し、演奏時の曲間スペースが約4秒になります。もう1度押すと解除されます。■27

⑥リピート・キー〔REPEAT〕〈P-2s〉

リピート演奏を行うときに使用します。〔A-B〕キーは、ブロックリピート演奏時に使用します。■22、23

⑦フェイズ・キー〔PHASE〕〈D-3〉

D-3から出力する音声の位相を反転するときに使用します。キーを押すと動作し、もう1度押すと解除します。

⑧インデックス・キー〔INDEX〕〈P-2s〉

インデックスが記録されているディスクでは、インデックスからの演奏ができます。▶24

⑨サーチ・キー〔SEARCH〕

演奏中または一時停止中に押し続けると早送り／早戻しとなります。〔◀◀〕キーは早戻し、〔▶▶〕キーは早送りになり、指を離すと元の状態に戻ります。▶25

⑩停止キー〔STOP〕〈P-2s〉

押すと演奏を停止し、P-2sの表示窓は“TRACK 0”表示となります。

⑪一時停止キー〔PAUSE〕〈P-2s〉

演奏を一時的に止めるときに押します。再び演奏を始める場合は〔PLAY〕キーを押します。

⑫ミュート・キー〔MUTING〕〈D-3〉

一時的に出力音声がなくなり、D-3本体(ボタン内)のLEDが点灯します。もう1度押すと解除されます。
*ミュート中の出力調整はレベルの確認ができないためおやめください。レベル調整はミュート解除後に行ってください。

⑬開閉キー〔OPEN/CLOSE〕〈P-2s〉

1度押すとディスク・トレイが出ます。もう1度押すとディスク・トレイが収納します。

⑭プログラム・キー〔PROGRAM〕〈P-2s〉

押してプログラム・モード (P-2sに“PROGRAM”点灯)にすると、プログラム演奏が可能となります。▶20

⑮シングル・キー〔SINGLE〕〈P-2s〉

1曲だけの演奏を行なうときに使用します。▶25

⑯デリート・キー〔DELETE〕〈P-2s〉

押してデリート・プログラム・モード (P-2sに“DELETE”点灯)にすると、聞きたくない曲だけをとばした演奏が可能となります。▶21

⑰クリアー・キー〔CLEAR〕〈P-2s〉

プログラムされている曲の削除に使用します。

⑱インデックス・キー〔INDEX〕〈P-2s〉

テン・キーでインデックス番号を認定するときに押します。▶24

⑲チェック・キー〔CHECK〕〈P-2s〉

プログラムされている曲のチェックができます。▶20

⑳ディスプレイ・キー〔DISPLAY〕〈P-2s/D-3〉

●「ON」：表示窓の表示を復帰させるときに押します。

●「OFF」：表示窓の表示を消すときに押します。

㉑スキップ・キー〔SKIP〕〈P-2s〉

演奏中または一時停止中に押すと、押す度に曲の頭をサーチします。また、停止中に押すと、曲番の選択ができます。▶26

●〔◀◀〕：1回押すと、今聞いている曲の頭に戻り、続けて押すと、前の曲へ戻ります。

●〔▶▶〕：1回押すと、次の曲の頭にとびます。続けて押すと、次の曲へと移ります。

㉒プレイ・キー〔PLAY〕〈P-2s〉

演奏を始めるときに押します。また、プログラム演奏を開始する場合にも押します。

㉓出力レベル調節キー〔OUTPUT〕〈D-3〉

D-3の出力レベルを調節します。

「+」は音量が大きくなり、「-」は小さくなります。

演奏(基本操作)

P-2sに付属(D-3は別売)のリモコンは、本機の操作に必要なすべて(電源を除く)を備えています。ここからの説明は、リモコンを使用した場合とします。なお、本体側の操作ボタンでも、リモコンと同じマークまたは名称のキーと同様の操作ができます。

準備

<P-2s>



●本体の[POWER]スイッチを押して電源をONにする。

<D-3>

●本体の[POWER]スイッチを押して電源をONにする。

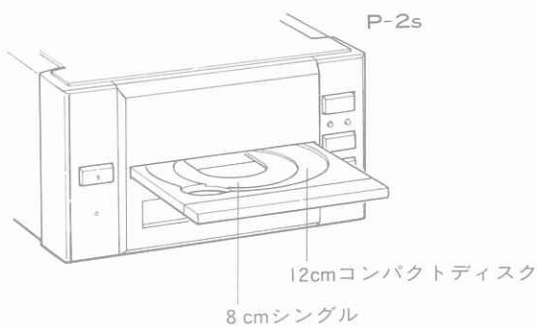
●[INPUT]キーを押して、P-2sが接続されている入力端子(1~4)を選択する。

*リモコンの「CD」キーを押すと自動的にP-2sが選択されます。

●[OUTPUT]つまみで出力レベルを調節する。
通常は -   表示にしてください。
(アナログ信号のみレベル調節可能)

<ステレオ・アンプ>

●ステレオ・アンプの電源をONにし、セレクターを「CD」などにセットする。



●ここではP-2s+D-3+ステレオ・アンプ+スピーカーが接続されているとします。

1. [OPEN/CLOSE]キーを押す。

*P-2sのディスク・トレイが手前に出ます。
電源が入っていないと開閉できません。

2. ディスクは、レーベルを上にしてセットする。

*ディスクは中央部のガイドに正しく入れてください。

3. [OPEN/CLOSE]キーを押す。

*P-2sのディスク・トレイが閉じ、表示窓に「曲数」および「総演奏時間」が表示され続けます。

*ディスクが中央部のガイドに正しくセットされていない場合は、ディスク・トレイを閉じずに再び開くことがあります。

4. [PLAY]キーを押す。

*本体[PLAY]キー内のLEDが点灯し、ディスクの1曲目から演奏を始めます。

5. ステレオ・アンプの[OUTPUT]ボリュームを調節する。

6. 演奏を止める場合は、[STOP]キーを押す。



■ディスク・トレイを 開いたままでも——

[PLAY] キーを押すと……

ディスク・トレイが自動的に閉まり、ディスクの最初の曲から演奏を始めます。

テン・キーを押すと……

ディスク・トレイが自動的に閉まり、テン・キーで指定された曲から演奏を始めます。

[PAUSE] キーを押すと……

ディスク・トレイが自動的に閉まり、ディスクの最初の曲で一時停止になります。

■ダイレクト選曲

希望する曲の番号を“テン・キー”で押すと、[PLAY] キーを押すことなく、指定の曲から演奏が始まります。

例1：曲番 5 から演奏する場合…

⁵
□ のキーを押す。

例2：曲番21から演奏する場合…

⁺¹⁰ □ → ⁺¹⁰ □ → ¹ □ の順にキーを押す。

■演奏の中止

ディスクを取り出す場合……

[OPEN/CLOSE] キーを押す。

演奏が止まり、ディスク・トレイが手前に出てきます。

一時停止する場合……

[PAUSE] キーを押す。

演奏が一時停止します。再び演奏を始める場合は、[PLAY] キーを押す。

演奏を止める場合……

[STOP] キーを押す。

プログラム演奏

1枚のディスクから好みの曲を、演奏させたい順にメモリーすると、指定した曲だけの演奏“プログラム演奏”を行うことができます。

■プログラムのセット

例：2→4→15→10の順に演奏を行うには

停止中(ストップ・モード)に行う場合

1. [PROGRAM]キーを押す。



2. テン・キーを押す。



曲番(TRACK No.) 曲順(演奏順) 総演奏時間

*指定の曲をメモリーする度に、曲番・曲順および総演奏時間が表示されます。

演奏中(プレイ・モード)に行う場合

3. 操作方法については“停止中……”と同様です。

なお、[PROGRAM]キーが押されたときに演奏中の曲は、自動的に曲番1としてメモリーされます。

*総演奏時間は表示されません。

4. プログラム演奏を開始する場合は、[PLAY]キーを押す。

*曲順1から順に演奏を行い、最後の曲を終了すると自動停止します。

●メモリーは最大40曲まで可能です。

●演奏を終了しても、曲はメモリーされています。

●プログラム演奏後に[STOP]キーを押して演奏を止めても、曲はメモリーされています。さらに[STOP]キーを押すと、“PROGRAM”表示が消え、曲はメモリーから消滅します。

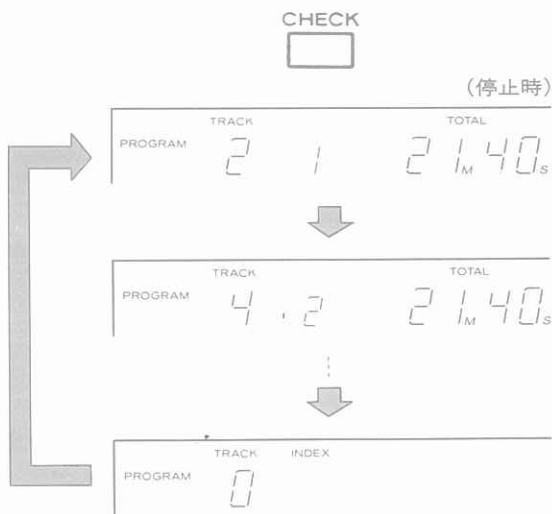
●[PROGRAM]キーをもう一度押す、またはプログラム演奏を始める前に[STOP]キーを押すと、メモリーされている曲は消滅します。

●プログラム入力中に[SINGLE]キー、[DELETE]キーを押すと今までプログラムされた全ての曲は消滅します。

■プログラム内容のチェック

“プログラムのセット”またはプログラム演奏中に[CHECK]キーを押します。

[CHECK]キーが押されるたびに表示窓にプログラムの曲番・曲順が表示され、停止時は総演奏時間も表示されます。



■プログラムの修正(追加/削除)

■追加

プログラムにさらに曲を追加する場合は、プログラム演奏前または演奏中でも、追加したい曲番のテン・キーを押すだけで、プログラムの最後に曲を追加して行くことができます。

■削除

例：2→4→15→10とプログラムして、15を消す場合……

1. [CHECK] キーを押して、表示窓に曲番15 (TRACK NO) を表示させる。



2. [CLEAR] キーを押す。

* "15" が削除され、次の曲が繰り上って表示されます。



3. 他にも削除したい曲がある場合は、1と2の操作を繰り返します。

■デリート・プログラム演奏

1枚のディスクのうち“演奏したくない曲”をあらかじめ選んでおくと、指定された曲を除いて演奏を行います。つまり、通常のプログラム演奏とは逆の操作になるわけです。

1. [DELETE] キーを押す。



(停止時)



2. プログラム演奏と同様、ここでは削除したい曲番のテン・キーを押す。



さらに曲を指定する場合は、テン・キーを繰り返し押します。

以上、削除した曲の内容は、通常のプログラムの場合と同じ手順でチェックおよび修正を行うことができます。

3. [PLAY] キーを押すと、メモリーした曲を除いて演奏を行います。

*演奏中でも同様の操作を行うことができます。

リピート演奏

ディスクの1曲／全曲／任意のA-B間、の各リピート演奏ができます。

■ディスクの1曲を繰り返すには…

〈1曲リピート演奏〉

1. [SINGLE]キーを押す。

SINGLE



(表示窓に“SINGLE”点灯)

2. [REPEAT]キーを押す。

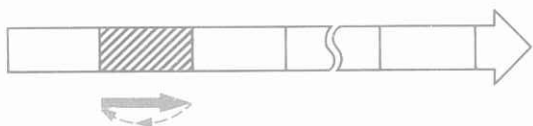
REPEAT



(表示窓に“REPEAT”点灯)

3. 希望する曲番のテン・キーを押す。

* 指定曲の演奏が自動的に始まり、1曲の演奏が終わると再び演奏を繰り返します。



■ディスクの全曲を繰り返すには…

〈全曲リピート演奏〉

1. [REPEAT]キーを押す。

REPEAT



(表示窓に“REPEAT”点灯)

2. [PLAY]キーを押す。

* ディスクの1曲目から演奏が始まり、最後まで演奏を行うと、最初に戻って再び演奏を続けます。

* 演奏を開始後に [REPEAT] キーを押しても、同様に働きます。



■指定した区間を繰り返すには…

＜ブロック・リピート演奏＞

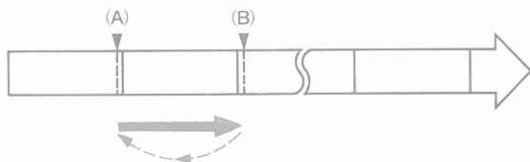
1. テン・キーまたは[PLAY]キーを押して演奏を始める。
2. 繰り返しを行いたい位置(A)で、[A-B]キーを押す。



3. 演奏をそのまま続けるか[SEARCH]キーを押すなどして、繰り返しを終わらせたい位置(B)を見つけ再び[A-B]キーを押す。



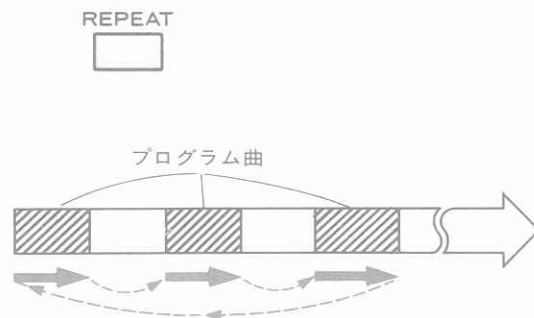
4. 最初の(A)に戻り、A-B間の演奏を繰り返します。



- * シングル・モードになっている場合は、2つ以上の曲に渡るブロック・リピートはできません。
- * ブロック・リピート・モード時に[A-B]キーをもう一度押すと、ブロック・リピート・モードが解除されます。

■プログラム・リピート演奏

プログラム演奏時(前項参照)に[REPEAT]キーを押しておく、プログラム演奏が繰り返し行なわれます。



便利な機構とその使い方

■タイム・サーチ

現在演奏中の曲を“2章節目”から再び演奏を行うなど、演奏時間に合わせたサーチを行うことができます。

例：現在演奏中の曲番2の“1分5秒”をサーチする場合。

1. 曲番2を演奏中に [TIME SEARCH] キーを押す。

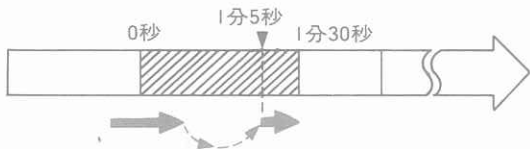


2. テンキーを $\overset{0}{\square}$ ・ $\overset{1}{\square}$ ・ $\overset{0}{\square}$ ・ $\overset{5}{\square}$ の順に押す。



*表示させない時刻は $\overset{0}{\square}$ を押す。

3. “時刻”がセットされると直ちに指定時刻位置へサーチが行なわれ、指定の時刻から再び演奏を始めます。



- 指定する曲の演奏時間を越える時刻のセットは出来ません。(例では、1分31秒以上)
- [TIME SEARCH] キーを押した後に演奏が次の曲へ進んだ場合でも、サーチされる曲は前の曲となります。(TRACKに表示の曲)

■インデックス・サーチ

本機はインデックス・サーチ機能を備えていますので、インデックスが記録されているディスクでは、希望のインデックスから演奏を始めることができます。

[INDEX]キーまたは[◀INDEX▶]キーのいずれでも操作できます。

1. テン・キーを押してインデックス・サーチしたい曲を演奏する。
2. インデックス番号を設定する。

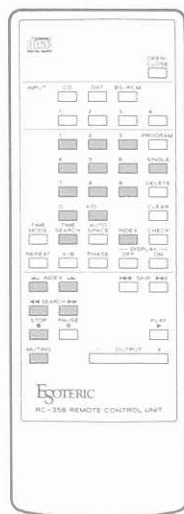
A. [INDEX] キーを使用の場合

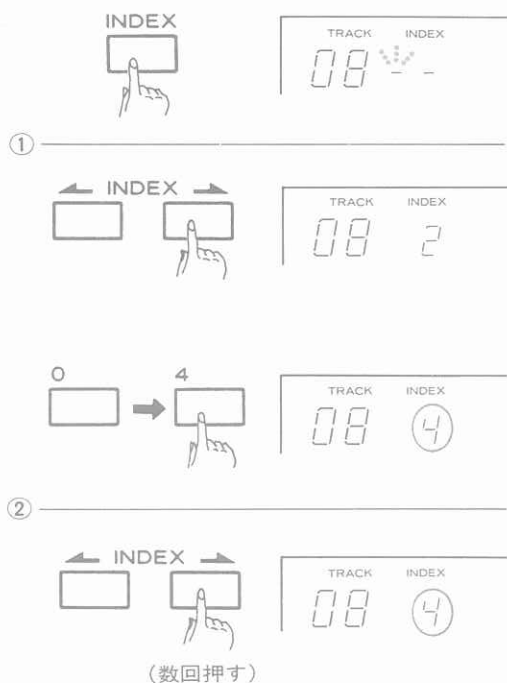
- ① [INDEX] キーを押す。
- ② テン・キーで希望のインデックス番号にする。
(例 インデックス番号“4”はテンキーの $\overset{0}{\square}$ $\overset{4}{\square}$ を押す)

B. [◀INDEX▶] キーを使用の場合

- ① “▶”側のキーを押す。
- ② 続けて同キーを押し希望のインデックス番号にする。(数を戻すときは“◀”側を押す)

*テン・キーでのインデックス番号変更はできません。





3. 指定のインデックス番号へサーチが行なわれ、演奏を続けます。

- インデックス番号以上の「数」をセットした場合は、その曲の最後のインデックスから演奏を行います。

■シングル演奏

指定した曲(1曲)の演奏を1回行なって停止します。

1. [SINGLE]キーを押す。



2. 指定する曲番のテン・キーを押す。

- 指定した曲の演奏が始まり、終了すると演奏が止まります。

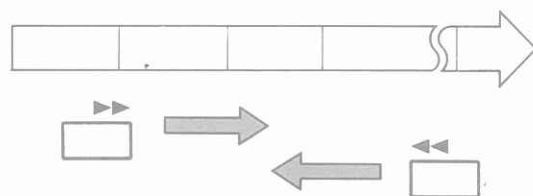
■ミュート(D-3)

ディスクを演奏中に電話がかかってきたときなど、D-3の再生出力を一時的に止めることができます。[MUTING]キーを押すと働き、もう一度押すと通常の再生出力に戻ります。



■早送り／早戻し

演奏中または一時停止中に[SEARCH]キーを押すと、押している間が早送り／早戻しになります。「▶▶」キーを押すと早送り、「◀◀」キーは早戻しになります。動作中は再生音が小音量で聞こえますので、再生音または表示窓の時間表示を確認しながら希望の位置が探し出せます。キーから指を離すと通常の再生に復帰します。



- 演奏中に早送りでディスクまたはプログラムの最後まで来ると、その位置で一時停止になります。また、早戻しでディスクまたはプログラムのスタート位置まで戻ると、そこから再生します。
- プログラム演奏中は、メモリーされている曲をサーチします。

■スキップ・サーチ

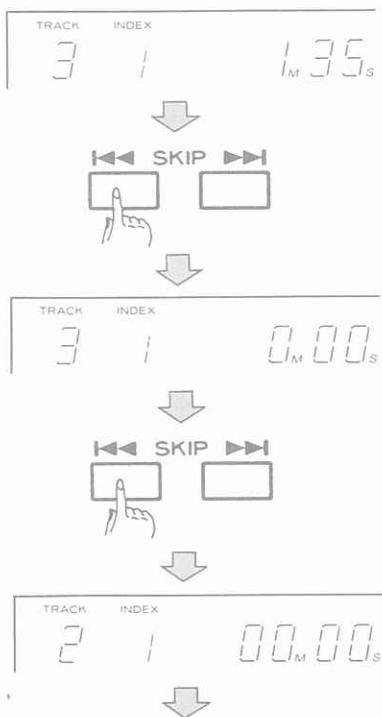
[SKIP]キーを押すと、押す回数によって希望する曲へスキップされます。

停止中または一時停止中に押した場合は、曲番設定後に[PLAY]キーを押すと指定曲から演奏が始まります。

演奏中に押すと次のように働きます。

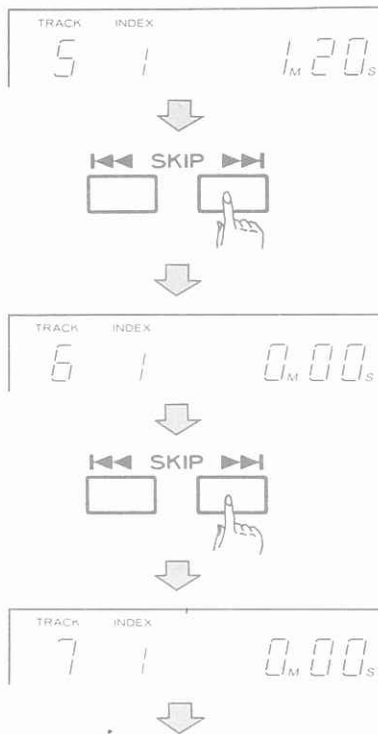
前の曲に戻る

演奏中に「**◀◀**」キーを押すとその曲の頭に戻り、さらに押す度に前の曲、前の曲へと戻ります。



後の曲へスキップ

演奏中に「**▶▶**」キーを押すと、その度に次の曲へ移り、曲の頭から演奏を続けます。



- プログラム演奏時は、メモリーされている曲のみスキップをします。



■タイム・カウンター

P-2s表示部のカウンターモードは、〔TIME MODE〕キーを押すことによって各種タイム・カウンターとして利用することができます。

TIME
MODE



■通常のカウンター(無表示：経過時間)

〔TIME MODE〕キーを押してカウンター上部の表示を消すと、各曲ごとの経過時間を表示するカウンターとなります。

TRACK	INDEX	
3	1	1M 15s (曲番3の演奏時間、1分15秒経過)

■リメイン・カウンター(REMAIN：残量時間)

〔TIME MODE〕キーを押してカウンター部に“REMAIN”を点灯させると、各曲ごとの残り時間を表示します。

TRACK	INDEX	REMAIN
3	1	1M 05s (曲番3の演奏時間、残り1分5秒)

■トータル・リメイン・カウンター

(TOTAL REMAIN：総残量時間)

〔TIME MODE〕キーをさらに押すと“TOTAL REMAIN”が点灯し、演奏を終了するまでの総演奏時間を表示します。

TRACK	INDEX	TOTAL REMAIN
3	1	36M 21s (このディスクの演奏時間、残り36分21秒)

*リピート演奏時は“----”表示となってカウントしません。

- 各カウンター・モードは、電源を切ったときのモードが再び、電源を入れたときも呼び出されます。
- ディスクを装着した時、または停止中にプログラム演奏のメモリーおよびチェックを行った場合、自動的に“TOTAL”が点灯して総演奏時間を表示します。

■オート・スペース

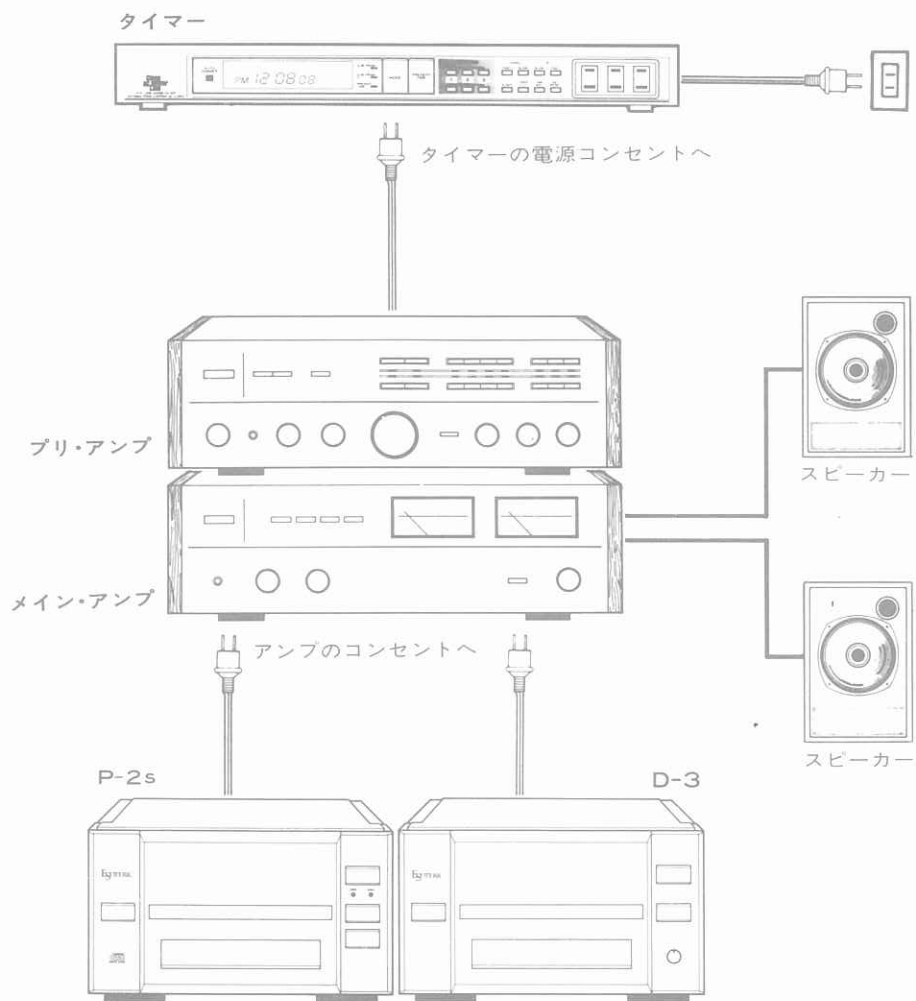
〔AUTO SPACE〕キーは、演奏時の曲間スペースを一定(約4秒)にして演奏を行います。

〔AUTO SPACE〕キーを押すと表示窓に“AUTO SPACE”が点灯してONとなり、もう一度押すとOFFになります。

AUTO
SPACE

タイマー演奏

さわやかな音楽で目を覚ましたい……。
タイマーを組み合わせて、希望の時刻から
演奏を始めることができます。



1. 電源コードを図のように接続する。

* 信号ケーブルの接続は、9、10ページ等を参照してください。

2. “タイマー”をON状態にし、各機器の電源スイッチもON。

* 各機器へ電源が入ります。

3. ディスクを入れる。

4. ステレオ・アンプの“入力切換スイッチ”を、本機を接続した端子に合わせて切り換える。
音量調整もしてください。

5. “タイマー”を希望の時刻にセット。(各機器への電源が切れます)

6. 指定した時刻になると、ディスクの1曲目から演奏を開始します。

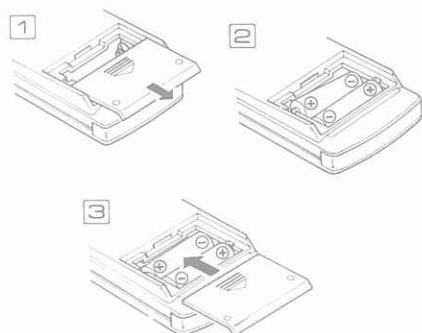
●タイマー演奏が終わったら、ディスクを取り出しておいてください。

リモート・コントロール・ユニット(リモコン)について

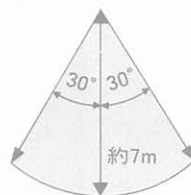
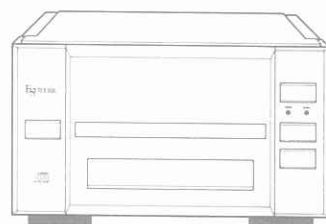
本機(P-2s)に付属のリモコンは、P-2sまたはD-3を操作するための“キー”すべてを備えています。電源のON/OFFを除き、本体から離れた所からでも、すべての操作をすることができます。

■電池について

リモコンへの装着



- ① 裏側のふたを開ける。
- ② ⊕、⊖の向きに注意して電池をはめ込む。
- ③ ふたを閉める。



電池の交換時期は……

リモコンでの操作可能範囲が狭くなったり、リモコンの操作キーを押しても本機が動かない場合は、電池が消耗しています。新しい電池に2本とも交換してください。

電池についてのご注意

乾電池を誤って使用すると、液漏れや破裂などの危険があります。

1. 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースの指示どおりに正しく入れてください。
2. 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
3. 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
4. 電池には充電式と充電式でないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。

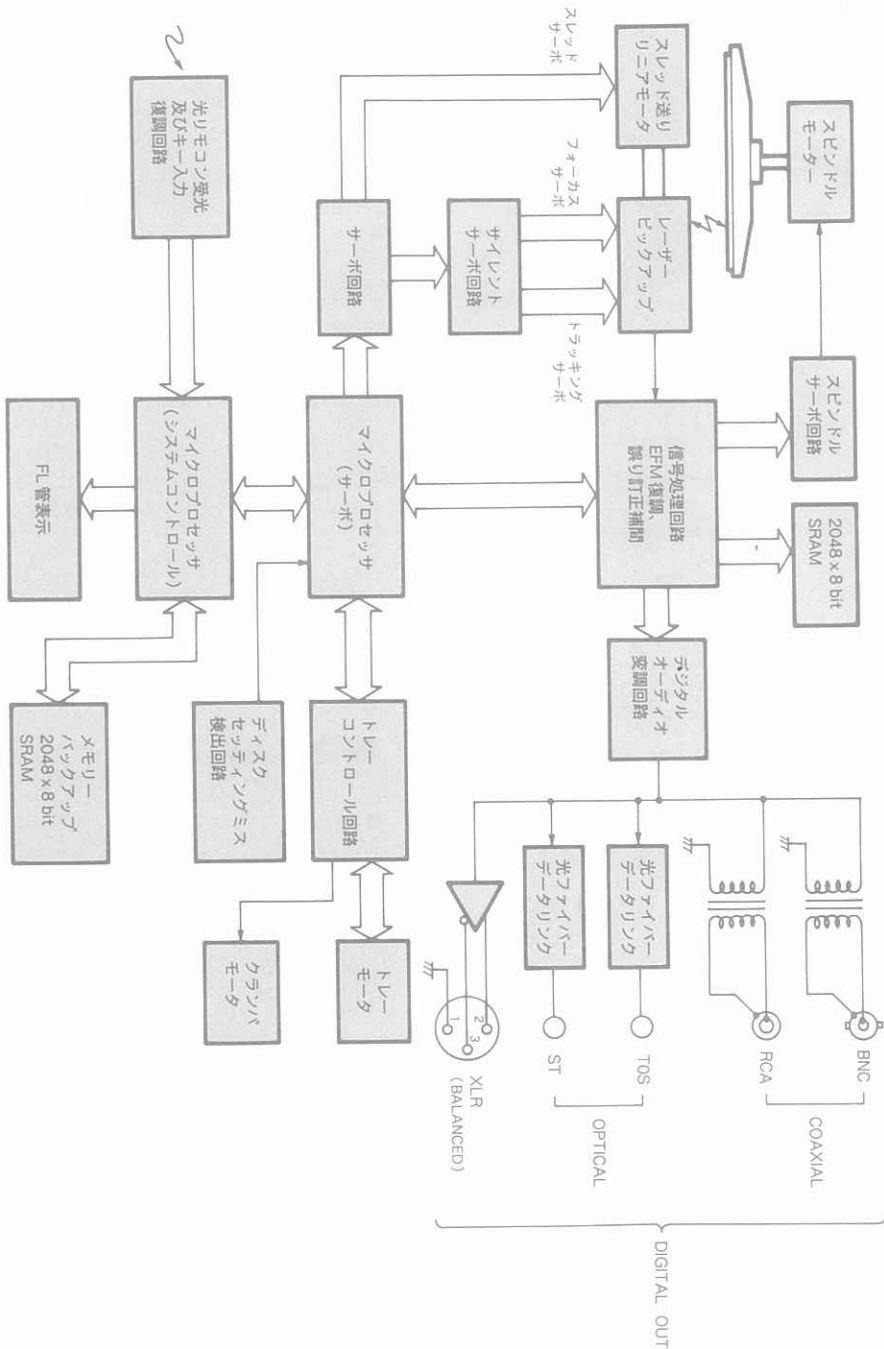
■使用上のご注意

- P-2sまたはD-3との間に障害物があったり、操作時の角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。
- 赤外線を発射する機器の近くでCDプレーヤーを使用したり、赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると、CDプレーヤーは誤動作することがあります。逆に赤外線によってコントロールされる他の機器を使用時に本機のリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。
- リモコンの操作可能範囲が極端に狭くなってきたら電池を交換してください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しない時は、電池の液漏れを防ぐために電池を取出してください。もし液漏れを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭取ってから新しい電池を入れてください。

ブロック・ダイアグラム

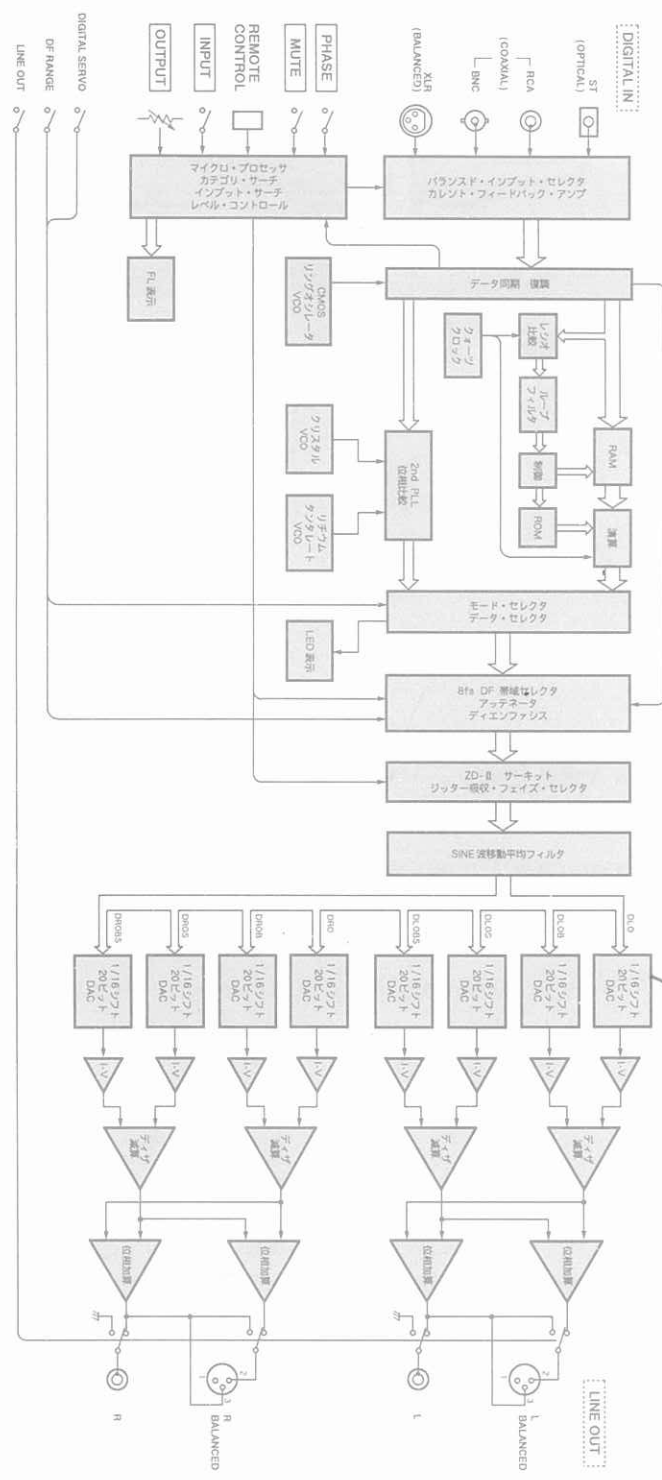
P-2s CDドライブ・ユニット

P-2s ブロック図



D-3 マルチD/Aコンバーター

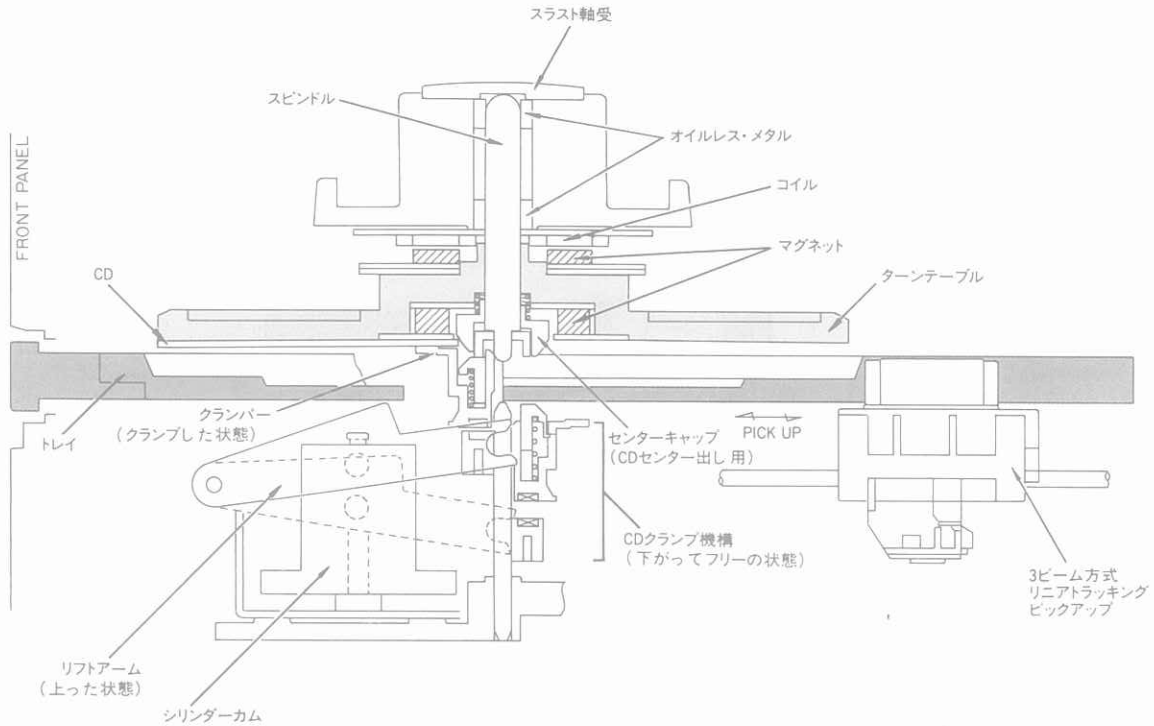
D-3 ブロック図



AD社 AD1862

解説

ESOTERIC P-2s ドライブ機構略図 (大径圧着式テーパード・ターンテーブル)



ディスクのソリを矯正する大径圧着式テーパード・ターンテーブル採用の V.R.D.S.(Vibration-Free Rigid Disc-Clamping System)機構

きわめて安定したスタビライザー効果をもたらす。新開発の大径圧着式テーパード・ターンテーブル採用のV.R.D.S.機構。ディスクと同径で、しかも微小な角度をもつターンテーブルに、高精度に調整されたクランパーがディスク本体を圧着し、ソリや歪みを矯正。そしてターンテーブルと同角度に微調整されたピックアップにより、常にピックアップ光軸の中心で微細なピットを正確に読みとると同時に、ディスクの不要な振動を極少にすることを可能にした全く新しいディスク・クランピング・システムです。すなわちピットをきわめて正確に読みとることで、エラー補正量、サーボ量を大幅に低減。その結果、電気的にはサーボ電流の変動や読みとりエラーを激減させ、機械的にはサーボ時のレンズ振動に起因するノイズの発生や駆動部全体の振動等により発生するノイズを極少

と、音質を飛躍的に向上させることに成功しています。また、従来のCDプレーヤーでは、ピックアップ部とモーターを含めたターンテーブル部が近接せざるを得ない構造であったため、強度や剛性の点で十分であるとは言えませんでした。P-2sではディスク・ドライブ・モーターを亜鉛ダイキャスト・シャーシ上部に固定。ピックアップ部と完全に分離させることでモーター軸受、ピックアップベースの剛性、強度を飛躍的に高めることに成功しました。さらにターンテーブルをアルミ合金と黄銅の二重構造とし、耐久性、回転安定性ともに高い信頼性の新開発ブラシレス・ホール・モーターと相まって、振動に影響されず耐振・耐共振性を飛躍的に高めた高精度メカニズムを実現しました。

アフター・サービスについて

1. この製品には“御愛用者カード”が添付されております。カードは、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、必要事項を記入の上、なるべく早くご返送下さいますようお願い致します。
2. 保証期間はご購入日より1年です。保証期間中は、保証書の記載内容により、当社サービス機関が修理いたします。
その他詳細につきましては保証書をご参照ください。
3. 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについてご不明の場合は、ご購入の販売店、もよりの当社営業所またはサービス・センターにご相談ください。
保証期間経過後、修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
なお、営業所などの所在地および電話番号は、住所欄に記載してあります。
4. この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

■サービスのご依頼について

万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認し、ご購入のお店または裏表紙の住所欄に記載の各営業所などにご連絡ください。

1. 型名、型番
2. 故障の内容
3. お買い上げ年月日「○年○月○日」
4. お名前、住所、電話番号

■お客様のご相談について

製品に関する技術的なお問合せは、AV技術相談室へお寄せください。

AV技術相談室 ☎(0425)60-7761(直通)

〒208 東京都武蔵村山市伊奈平2-11-1

仕様

P-2s CDドライブ・ユニット

<ピックアップ>

方式	対物レンズ駆動、光学式3ビーム
対物レンズ駆動方式	2次元平行駆動
光源	半導体レーザー
波長	780nm
<ピックアップ駆動方式>	リニアモーター駆動

<信号フォーマット>

標本化周波数	44.1kHz
量子化ビット数	16ビットリニア/チャンネル
伝送レート	4.3218Mb/sec
変調方式	EFM
エラー訂正方式	CIRC

<ディスク>

方式	コンパクトディスク
演奏時間	約60分/約20分
ディスク直径	120mm/80mm
ディスク厚	1.2mm
線速度	1.2~1.4m/sec
トラックピッチ	1.6 μ m

<オーディオ>

出力(デジタル)	0.5Vp-p/75 Ω (BNC, RCA) -15dBm~-21dBm(OPTICAL TOS) -12.5dBm~-15dBm(OPTICAL ST) 4Vp-p/110 Ω (XLR BALANCED)
----------	--

<一般>

電源	100V AC 50-60Hz
消費電力	18W
外形寸法(W×H×D)	225×134×490mm
重量	14kg

<リモコン RC-356>

リモコン方式	赤外線パルス方式
電池	DC 3V 乾電池SUM-3型 2個使用
外形寸法(W×H×D)	70×202×21mm
重量	150g(電池含む)

<付属品>

P-2s

- リモコン(RC-356)
- 乾電池(単3 SUM-3)×2
- 同軸コード(バン・デン・ハル社 デジタル・コード VDH-T208)
- 取扱説明書(バインダー含む) ●保証書

D-3 マルチD/Aコンバーター

<オーディオ>

オーディオチャンネル数	2チャンネル
周波数特性	2~20,000Hz \pm 0.3dB(44.1kHz):RCA 2~20,000Hz \pm 0.5dB(44.1kHz):XLR
SN比	116dB(A Weight)
ダイナミックレンジ	102dB(A Weight)
高調波歪率	0.0008%(A Weight 1kHz):20ビット入力 0.0012%(A Weight 1kHz):16ビット入力
チャンネルセパレーション	110dB以上(A Weight 1kHz)
デジタル入力	OPTICAL(光) STリンク:-15~-12.5dBm COAXIAL(同軸) RCA:0.5Vp-p/75 Ω BNC:0.5Vp-p/75 Ω BALANCE(バランス) XLR:4Vp-p/110 Ω
アナログ出力	COAXIAL(同軸) RCA:3.0Vrms/75 Ω BALANCE(バランス) XLR:6.0Vrms/150 Ω
入力サンプリング 周波数レンジ	28~54kHz

DSRLLモード (DIGITAL SERVO:ON) Level 1/2/3	DSRLL 28~54kHz
アナログPLLモード (DIGITAL SERVO:OFF)	Level 1 クリスタルVCO 44.1kHz \pm 150PPM
Level 2 リチウムタンタレートVCO	32kHz \pm 1000PPM
Level 2 リチウムタンタレートVCO	44.1kHz \pm 1000PPM
Level 2 リチウムタンタレートVCO	48kHz \pm 1000PPM
Level 3 DSRLL	32~48kHz \pm 12.5%

入力ビット数	4~20ビット(自動選択)
D/Aコンバーター	1/16シフト20ビット8DAC+ZDII
デジタルフィルター	25ビット・8倍オーバーサンプリング・デジタルフィルター

<一般>

電源	100V AC 50-60Hz
消費電力	22W
外形寸法(W×H×D)	225×134×485mm
重量	11.5kg

<付属品>

D-3

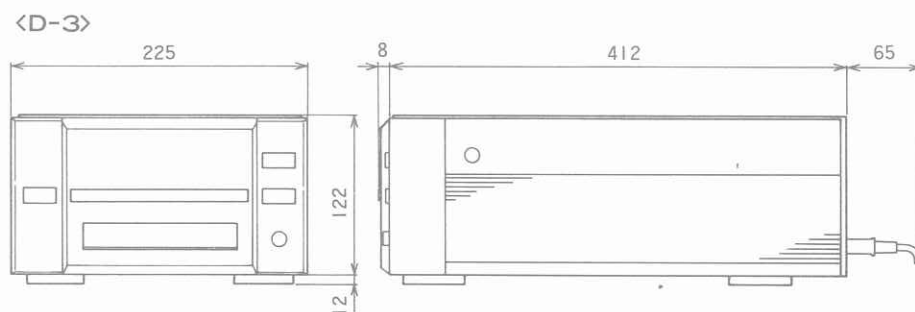
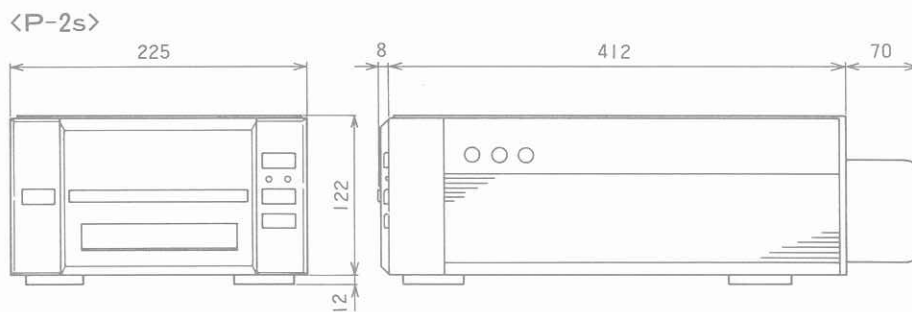
- 取扱説明書(バインダー含む) ●保証書
- BNC-RCA変換プラグ

*仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

*製品の改善により、取扱説明書の写真などが一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

D-3のトップは AD社の

寸法図



音のエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。

特に、夜間は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。